

1



* 0009795000 *

0009795-000

特 242-562

太平洋問題

加藤尚雄・述

天理教道友社

昭和 14

ABJ

この著作物は、著作権者不明のため、著
第67条の規定に基づき、平成12年3
月で文化庁長官の裁定を受け使用するも

592

特 242

562

海軍省海軍報道部課長
第二課長海軍大佐
加藤尚雄述

教國民精神總動員
會議叢錄分冊(五)

興亞文庫第十五輯

太平洋問題

天理教道友社版

592

特242

562

教國民精神總動員
會講義錄分冊(五)

興亞文庫第十五輯

海軍省海軍報道部課長
第二課長海軍大佐

加藤 尚雄 述

太平洋問題

天理教道友社版

特242
562



天理教國民精神總動員
講習會講義錄分冊(五)

加藤大佐
述

太平洋問題

興亞文庫第十五輯



本冊に集録致しましたものは本年五月教師會主催により東京に於て開催せられた天理教國民精神總動員講習會の講義録である。全科目講義録は教師會より發行せられるものであるが、廣く江湖に頒つて主旨の徹底を計るために乞ふて分冊となし本文庫より發行することゝした。愛讀者各位は充分味讀して時局認識の上に又常識涵養の上に役立てられんことを希望する。本速記録は勿論述者の嚴密なる校訂を得て上梓したものであるが、文責編者に在ることを附言す。

編 者 識

本題は極めて大きな問題でありまして、廣般な角度よりこれを檢討致す可き性質のものであり、従つて到底僅少なる時間をもつて盡し難いものでありまするが、題の大きさには甚だそぐはない結果にはなるかとも思ひますが、私が本日申上げようと考へて居ります事は、要は——結論から先に申上げるやうになりまするが——現在の各國の動靜、殊に各國の東洋に對して考へて居るであらうと想像出來ますところの幾多の事態、且つは近來東洋に關係の深い、又將來深かる可き國々が、如何様に此の海上制覇に力を入れて居るか、といふ事を考へ、更に一轉致しまして、世界の永き歴史の上に照らして、海といふものが、その國の繁榮、その國の發展に如何様の關係を及ぼしたか、影響を及ぼしたかといふ事、さういふ風に縦に永い年代を通じ、横に廣く世界、就中太平洋に關係のありますものを考へ來つて、そしてその結論として、我々がまこと

に深く感じまする事は、實に日本の將來は此の茲に問題となつて居りまする太平洋問題である。今日口を開けば總ての人が申しますところの大陸の大經綸、所謂東亞新秩序の建設なるところの問題も、歸するところ太平洋問題であるといつて宜しい。單に陸上だけに於て此の大陸問題を考へても、それは結論を得ない。本質には觸れ得ないのである。大陸問題を論ずる場合は、必ず太平洋の問題、廣く海洋の問題を採り來つて、これと併せて考へなければ成り立つものではないといふ、さういふ結論に達するのであります。

故にこれより我が國の朝野が全力を擧げて邁進を致さなくてはならないところの東亞新秩序の建設なるものは、只、大陸にのみ目を注ぎ、大陸だけに關心をかけて居つた程度では、到底それが解決は期し得らる可きものではない。大陸に對して深き關心と理解を有つと共に、併せて、大洋——就中太平洋につい

て十二分の關心を拂ひ、遺憾無き理解を有つにあらずんば、此の問題は到底解決出來ない。口に東亞の大經綸を唱へ、大陸の建設を云々致しましても、此の海の問題を忘れては、到底その核心に觸れる事は出來ないのである、といふ結論になるのであります。その間の消息を若干申上げて見ようと思つて參つたのであります。

それはそれと致しまして、一昨年七月七日の蘆溝橋の一發より起りましたる今回の事變は、これは申す迄も無く極めて深き所に原因があるのであります。只單に偶發的な一つの事態から次々と事態が起つて來たやうなものではないのであります。申さば起る可きものが起つたのである。唯單純に、支那の一部の軍隊が不法にも我が軍隊に對して發砲をして來た、といふそんな事だけが大事では決してないのであります。今回の事變の古きその大本を尋ねますれ

ば、まことに遠い所に、且つ深い所に重大な原因がある。その原因に就きまして、今彼これ私が申上げて居る時間は到底無いのであります。要は、今回の事變は日本と支那とが成る程戦つては居るけれども、然し乍ら對手は支那だけではなくて、支那の裏に隠れて居るところの怪物が居る。その怪物が單に隠れて居る許りでなく、時々露はに表にさへも出掛けて来るやうな情況にもなりかけて居る。かういふ怪物が居る、その怪物の力によつて、支那が躍つて居るのである。怪物の傀儡となつて居るのである。かう言つても宜いのであります。

その怪物とは何であるか。その怪物が今日我々が謂ふところの支那ならば、支那の蒙つて居る舊秩序の主であります。我々はその舊秩序を破壊して、さうして新しき秩序、我が皇道に即したる正々堂々として一點の恐るゝ所もなく、

天地に愧づる所ない、立派なその秩序を創り上げようといふ、その新秩序の對照となつて居る舊秩序、その舊秩序を構成して居るものは何であるか、即ち一面に於ては歐洲諸國の所謂舊き資本主義、その資本主義を根源と致しましたる支那に對する植民地化政策、その植民地化政策の對照に支那がなつて居る、左様な國々の植民地化政策の爲に搾取されつゝある、既に半植民地化されて居るところの支那、而も一方に於ては、その歐米の資本主義の謂はゞ鬼子とも云ふ可きところの、變形したる、所謂共產主義赤化政策、さういふものが一方からはひし／＼と押し掛けて來て居る。即ち一方に於ては先づ主として物を以て攻めて來る、一方に於てはその物だけではなく、それに更に今度は心が入つて、精神が來て居る。さういふものが此の南北兩方面からひし／＼と押し掛けて來て居る。その爲に支那は漸次に支那本來の面目を失ひつゝある。これを我々は

支那が蒙つて居る舊秩序と稱します。又日本としましても、同じくその舊秩序の爲に今日迄非常な大きな障害を受けて居る。所謂持たざる國になつて居る。持たざる國として當然に伸びむとする途がある。その伸びむとする途を閉ざして居るのは何であるか、之即ち舊秩序であります。我々は今や此の支那にとつても、日本にとつても、此の舊き秩序の形骸を清算し、さうして茲に新しく眞の秩序を創り上げよう、といふ事になるのであります。それが、所謂東亞新秩序の建設といふ言葉を以て表はされて居る事になるのであります。

然し乍ら此の東亞新秩序の建設といふ言葉は、一見まことに雄渾な文字ではありまするけれども、此の内容を考へますれば、如何にも困難で、大きな問題であります。非常な大きな事業である。けれども今や我々は事の難易を云々する時期ではありませぬので、所謂矢は既に遠き昔に弦を離れたのであります。

すが故に、事の難易の如きに彼これ關はる必要無く、我々は如何なる困難をも破拆し盡して、本當の新しい秩序を創り上げねばならない秋が來て居るのであります。

然るに、一昨年事變當初以來今日迄約二ヶ年の間、前線に於けるところの活躍はまことに素晴らしいものである。又國內統後の結束といふものも、御承知の如くまことに見事なるものであつた。成る程國內統後の結束、殊に國內人心の緊張ぶりといふものはたしかに見事なものであつたでせう。あつたでせうが、然し乍らこれが本當に満足した、良い状態になつて居るであらうかどうか、といふ事を考へますと、ひそかに憂慮すべきものも多々あるであらうと思ふのであります。私共は長らく東京方面に住んで居りまして、日夕東都の情況を見聞して居るわけでありますが、今回の講習會は各地より御參集と承つ

て居ります。その東京方面の御方でなく、遠方より東京へ御出になつた方がどういふ風に之を御覧になつたか、これは時間があれば一つ伺つて見たいと思ふ位であります。必ずや、『はてな、これでは少しく調子が違ひやしないか』といふ氣持をお持ちになつた方があらはせぬかと思ふのであります。殊に私共が最も憂慮を致しまする事は、學生生徒、青少年、殊に壯青年の輩であります。就中青年附近、次代の我が國を背負つて立つ、といふよりはもう既に今日の時代を背負つて立つ可き者、時世が時世でありますからして兎に角でありまするけれども、これが明治維新であつたならば、本當に維新のあの大事業の中堅となつた、あの年輩に在る人々である。それ等の人々の――まあ肚の中迄は分りませぬけれども、然し乍ら恰好を見れば、或る程度迄は肚の中も想像がつくものであります。違ふものもあるかも知れませぬが、大體の見當はつく

らうと思ふのであります。さういふ見地から今日東都の青年等の現状を見ました時に、私はこれでいゝのか、こんな事でいゝのかと日々考へるのであります。又、一青少年輩許りでなく、殊に私共が常々まことに不愉快に感じまするものは婦人の方面の問題であります。これは無論極く一部であります。又一部ならむ事を願ふのでありますけれども、それ等の婦人の服装、風采といふものを見ましても、恐らく斯かる時代に於て到底あり得べきものではないと思ふは思ふ。それは無論外貌を以て内心を律するやうな事は出来ませぬけれども、然し乍らそれにしてもです。今少しく心の緊張振りを表現すべく、服装その他にも何等かの表はれがあつて然るべきぢやないか、といふ風に考へるのであります。恐らく皆様方の中でも私と同感の意を表せられる方も多々おありと思ふのであります。

これでいゝのか、冗談ぢやない、こんな事をして居る時ぢやない。今は各國の東洋に對するところの見方はどうか、何を各國が思つて居るか、言つて居るか、日本の所謂東亞新秩序の建設なるものには、極く一、二の日本と同じ考へを有つて居ります國も無論あります。無論ありますけれども、大多數の國々は今日日本の悩み、支那の今日迄悩んで來たところの、この東亞の舊き秩序の立役者となり來つたのであります。故に舊き秩序の主であるところの第三國なるものは、眞ツ向から、日本の東亞新秩序の建設といふものには反對して居る。又反對せざるを得ぬのであります。反對しなければ、自分達が過去に於て勝手氣儘な仕事をしたのが、駄目になりますからして、たとへ厭でも反對せざるを得ぬ。その反對を、今度は單なる反對でない、力の上に於てその反對を反對として現はさうといふのであります。その力は即ち武力であります。彼等が今日

營々として、或は狂奔といふ字を使つても宜いかの如くにやつて居る軍備擴充といふものは伊達ぢやない。必ずやそれは何時かは物を言ふ時があるだらう、物を言はせにやならぬ、といふ事を目標にして居らなければ、多額の金をかけて、大きな軍備を整備するわけは無いのであります。無論軍備といふものは、本當を言へばそんなものぢやありません。軍備といふものは戦争の無いやうにするのが軍備である。戦争をする爲の軍備ぢやない。少くも日本の軍備はさうです。戦争を無からしむる爲の軍備であるが、外國のそれは、軍備の本質から可也離れたところの、さうぢやない、いざといふ時はその軍備に物を言はして……といふ、さういふ考へを有つて居る國が澤山あるのであります。これは過去の幾多の歴史が證明して居る。又今日に於ても、その外國の肚の底を尋ねて見れば、軍備の本當の意味を没却したところの考へを有つて居る國が多々あ

るといふ事は大いに考へなくてはならぬ事であります。本當の『武』ではありませぬ。左様な、本當の武を汚すところの武になるのであります。さういふ考へを有つて居る者が多いといふのは現實の證據である。その現實の姿を我々は、眞の理想の域に達するやう、我々が指導して行くべきであります。今日は却々そこ迄行つて居ないのであります。

それは兎も角として、かゝる本當の非常時であるといふのに、今一、二の例を申上げましたやうに、なる程今日迄、我が國內各方面に於けるところの結束、緊張といふものは相當素晴らしいものであつたといふ事は事實であります。然し此の程度では決して満足は出来ないとはいふ事は疑ふ可からざる事であらうと思ふのであります。故に今日、國民精神總動員といふものが強調せられ、皆様方の今度の講習も、國民精神總動員といふ事をもつて一つの大きな眼

目とされて居られるやうに承つて居りますが、まことにこれは意義ある事と思ふのであります。

さて左様な状態であるのに、近來一部に於ては、既に戦争は最早や峠に達したらう、もう大きな戦争は無からう、せいゝ／＼匪賊討伐位であらう、といふ風に考へる人もあります。由來日本人は氣が早い。氣が早い事も結構であるけれども、餘り氣が早いといふと、底が抜けて居るといふ事も多々あります。故に、氣をつけないといかぬと思ふのであります。決して今日は、戦争はもう峠に達した等といふ事は考へられませぬ。なる程、南京陥落、徐州大會戦、武漢三鎮攻略、海南島の占領等といふ、あゝいふ大きな戦争は或は將來無いかも知れませぬけれども、何も大きな都があるか無いかといふ事で作戦がどうかうといふ事は分らぬのであります。將來彼の出様によつては、如何なる第二の

作戦が展開するかも知れない。殊に、大きな作戦、小さな作戦といふ事よりも、彼等が今日尙大いに呼號して居るところの長期作戦なるものだけは、これは、たしかに續く、さうあるだらうと思ふのであります。

何となれば、先程申しましたやうに今回の戦争なるものは對手は支那であるけれども、その支那の裏に隠れて居るところの怪物がある。その怪物が支那を嗾けてかういふ戦争をやらせて居るのである、といふ事を考へましたただけでも、作戦の大小は別として、これを時間的に見て長く續くといふ事は疑ふ可からざるものである。勿論作戦の要訣は、最も速かに戦争の目的を達するのにありますけれども、近代の戦争ではそれが中々出来ないであります。昔のやうに海、陸の軍隊それだけが對手と戦ふといふのであるならば、それも可能であつたらうが、今日は國力戦である。國全體の力で戦ふのであります。

でありますからして、なる程、第一線は陸軍なり、海軍なりの軍隊でありますけれども、それを押して行くところの力は、ずーつと國內に及ぶところの大きなものが動いて居るのが實際であります。でありまするが故に所謂總力戦である。さういふ事を考へて見ますと、矢張り支那だつて總力戦である。日本が國民精神總動員を言へば、支那迄が柄にもなく國民精神總動員を言つて居る。支那でも矢つ張り國民精神總動員で、今日かういふ講習をやつて居るかも知れない。さういふ風な調子でありまするが故に、これは中々續く。而も今日の戦争を構成して居るところの範圍は實に龐大なものであります。山西、陝西の間から黄河の流れに沿ふて戦線が延びる。それから潼關から東に延びて開封附近から更に南へ曲る。それから湖南、湖北の邊を包含する。最近茲に素晴らしい大きな大戦争をやつたのは此の邊であります。それから武漢三鎮を攻略

し、南昌に及んで杭州に延びる。此の邊實に二千キロメートルあると云ひます。それから南支の廣東附近一帯も戦線であり又海南島の方もある。實に龐大なものである。此處の三千キロメートルなんといふのは流石に支那で、實に廣いものであります。歐洲大戰にドイツとフランスでやり合つた所は七百何十キロしかない。その四倍もあります。露獨戦線も大きいがそれでも二千何キロでこれには及ばない。廣東方面など、地圖で御覽になると小つぼけな所とお思ひになるかも知れませぬが、奉天の大戦争より此方の方が廣い。おまけに渤海灣から此の海岸を通つてトンキン灣に至る、此の間實に二千八百哩即ち大約五千五百キロ、かういふ長い間を海軍がその航行遮斷をやつて居ります。かういふ大きな作戦は無論日本の過去に於てもないし、外國にだつてありやしない。世界大戰の如きだつて今申したやうな状態です。それを日本がやつて

居る。對手は支那、及び支那の陰の怪物が對手になつて居るわけでありませぬが、表は支那であつて、日本にとつては實に大きな力であります。ところが對手の方も、人間だけは此の廣い表面に於てはまだ澤山居る。本日も新聞に發表されて居りますやうに、非常な大きな損害を彼も受けて居るが、人間は無數に居る。戦闘力は今日弱つて居るけれども、殘存兵力百何十萬といふ軍隊は馬鹿にならない。況や先程申しましたやうに、怪物が一方ならず彼を助けて居る。北の方はソヴェートが今日迄相當に支那に力を入れ、軍需品の供給など隨分應援をして居ます。例へて申せば飛行機の如きは、事變の當初に於て支那の持つて居た飛行機は八百臺附近と云ふのです。それが御承知の通り、我が海軍の飛行機、陸軍の飛行機の活躍によりまして、支那の飛行機はどん／＼撃破された。海軍の飛行機のみを以てして撃墜、撃破したところの飛行機は約千六百

臺、實に龍大なもの、これに陸軍の飛行機の活躍もある。最初八百臺であつたものが既にかういふ龍大な數に上つた、その間の開きはどうしたのだらう。支那に飛行機を造る所は無。茲が彼の大きな弱味であります。今日の戦争は一方に於ては一つの生産力の戦争である。でありますからして、今日八釜しく言はれて居る生産力擴充の問題、物資動員の問題もそれでありませう。ところが支那にはそれが無い。であるからその開きは外國から持つて來なければならぬ。外國も金さへあれば、といふ風でどん／＼持つて來た。その持つて來た申の殆ど全部はソ聯邦からの飛行機である。昨年の終り頃に現はれて來たものはソ聯邦のものが多。今日に於ては殆どソ聯邦の飛行機ばかりである。かういふ状態であります。その他色々應援をして居る。英國はビルマの方から鐵道、並に最近盛んに造つて居る支那側の道路、これによつて出來るだけ援助をし

ようとする。フランスが佛領印度から援助をする。

さて大事な金の問題、財政の問題はどうなつて居るか。英國は長年此處に大きな足場を持つて居ります。その足場といふものは、その彼が持つて居る利権といふものは、支那の昔からの金、法幣と切つても切れぬ關係に在る。故に法幣がへたばつて來るといふ事は英國の利権の勢力が弱つて來る事になるのであります。それやこれやで、先般も皆様御承知の通りに、法幣の維持を圖るが爲に相當多額の金を英國から持ち込む、といふやうな事もやる。即ち財政的にも援助する。ロシアの如きは更にその上に、結局は支那を助けるのぢやない、殺す事になるのであります。それも知らずに支那は大いに桃色から赤色に化けつゝあるのであります。元來、ソヴェートは、彼等の本來の精神、本來の希望、世界赤化政策の第一陣として此の支那を見て居るのでありますからし

て、かれらの物を以て援助するその裏には、必ずかれらの思想戦が入つて居る。でありますからして、ソヴェートに大いに援助をして貰ふといふ事は、支那にとつて苦し紛れの事であるかも知れないけれども、結局毒藥を服みつゝあるといふ事になるのであります。又一方、英、佛邊りの援助に對しても同様であります、結局は支那自身が支那を殺す事になるのである。

だから支那をしてもつと速かに眼を開かしめ、左様な歐米諸國に依存する事を止めさせて、思ひ切つて善隣日本と手を握る、といふ處まで思ひ切つた事をやらなければ、支那は救はれない。日本としてはその支那を救はなければならぬ。支那が殺されつゝあるといふ事は、即ち日本にとつてもこれは許し難いところの大問題である。日本と支那とは色々の角度から考へても、切つても切れない關係に在る。當に歴史の中に繋りを有つて居るだけでなく、今日だけの

問題としても、兄弟牆に鬩ぐといふ事は有り得べき事でない。左様に支那が西洋人の搾取の對照になるといふ事は、これは日本にとつても最も危険な事である。結局支那が此の際大いに覺醒して歐米への依存を止めて、日本と手を握れば割合簡單に行くと思ふ。東亞新秩序の建設もまことに意外の速度をもつて進行出来ると思ふのであります。

もう一つは、歐米諸國が餘計な東洋攪亂を止めるといふ事になれば即ち綺麗さつぱりと手を引けばこれが寧ろ一番である。然し之は到底實現出来ない。今や歐米が支那から手を引くなどといふ事は到底望み難いところである。然し今後絶世の政治家が歐米に現はれて右の如き堂々たる大芝居を打つ様な夢の様な事が出来れば兎も角であるが、まあ、容易に望み難いところである。故に支那が大死一番先手を打つて、左様な歐米依存を止めて日本に手を差し伸べて來

なければならぬ。今日の新政権は之を敢行すべき立役者であるが、殘存政權の長期抗戦を呼號する間は中々困難であらう。さういふ状態であるのであります。

而も一口に東亞新秩序の建設と云ふけれども、一體これはどういふ事であらう？ 政治的に經濟的に、將又文化百般、或は軍事的にもさうですが、非常にこれは大きな問題である。その大綱といふ可きものは、昨年十一月三日の政府の聲明である。又十二月二十二日の前首相の談話にも根本方針を示されて居る、その通りであります。一通りや二通りや、並大抵な緊張振りでは到底出来るものではない。今日日本の支那に對するところのやり方について賛意を表して居るものは一體どれだけの國があるか。東洋が蒙つて来たところの所謂舊秩序といふものをつくり上げたその發頭人、さういふ連中は悉く日本の新秩

序建設に眞向から反對して居る。然し乍らこれは誰が反對しやうがやらざるを得ぬ。何としても立派にやり遂げなければいかぬ、といふ情況に我々が當面して居る。さういふ事態に於て、而も各國の太平洋方面、極東に對する見方を打診して見れば、これは餘程の覺悟をしなければ大變だぞ、といふ事を我々は常々痛感して居るのであります。

さて今日此の日本の東亞新秩序の建設といふものに對して、大きな障礙が今日迄も既に有り、今後もあるでせうが、その障礙を與へる主、これは澤山あります。澤山ありまして色々の角度からも言へますが、それは措きまして、先づ我々の畑である國防といふ方から之を考へて見ませう。その國防の中でも、陸上方面につきましては陸軍の方からお話もあるかも知れませぬが、陸地方面だけを考へましてもこれは却々大變である。今言ひました支那の後から、これを

援助して居るところのもの、これは將來とも止めぬであらう。さういふものもあるが、その他にソヴェートの問題、ソヴェートが常々この日本の大陸方面への發展といふものに對して邪魔をする。現に今日の新聞にも出て居りましたやうな外蒙機の侵入、外蒙兵の國境侵犯といふ問題も起つて居ます。外蒙などといふものは、外蒙の外蒙でなくて既にソ聯邦の外蒙であると云つて宜い状態であります。更にその手を伸ばして、支那の殘存政權は段々桃色から赤くなりつつある。殘存政權の赤くなるといふ事はソ聯邦の狙ふところでありまして、これはソ聯邦の出店が段々肥ることである。出店が肥れば本店も肥るのでありますから、本店が大いに物資を搬び、援助するのは當然であります。これは將來共さうでせう。此のソ聯邦の陸上方面からする壓力といふものは、これについては一體どの程度か、これは中々本當のところは分りませぬ。或る人は非常な

大きな力で壓迫して居る、さうして彼等は時期を待つただけだ、彼等の東洋に於けるところの兵隊は四十數萬ある。彼等の飛行機は全體で八千台あるが、その中千八百台はアジアに来て居る。斯う申して居ます。さうして彼等の五ヶ年計畫は今日は第三回目になつて居るのですが、その毎回の五ヶ年計畫の國內産業の一大發展計畫といふものが相當進んで來て居る。昔の様な單なる農業乃至は輕工業の國ぢやない。彼等はまだ立派な重工業の充實した國である、といふ事は即ち長期戦が立派に出来る事になつたのだ。彼の肅正工作といふものゝ爲に却つて性質が良くなつて、變な分子が無くなつた。だからもう時期さへ來れば、即ち彼は日本と支那との長期作戦によつて、元來日本の大きな弱點であるところの經濟的な弱味を突込んで、弱つたな、といふ時に立ち上るだらう、かういふ風に見る人も多いのであります。これに對して、いや左様ではない、そ

こ迄は未だ来て居ない、さういふ事は考へて居るかも知れぬが今日は中々そこ迄行かない。さうして殊に最も大きい彼等の痛手は、長年の肅正工作によつて、軍隊から言へば大事な有爲の人物を澤山蹴つたのだから、これは大きな損害である。兵器は或る時期を掛ければ補ひがつくけれども、人間の補ひは容易につくものでない。その大事な、有爲なところの幹部級を勝手にズバ／＼やつて了つたのだから大きな損害である。到底今直ぐ立ち上る處迄行つて居ない、かういふ風に見る人もあるのです。張鼓峯の一件といふものは、これは何も本國の大きな政策から来て居るのではない、あれはブリュッヘルが一人手柄を立てようとしたものだ、といふ風に見て宜いのだ、といふ人もあります。これもどうも分りませぬ。

どうもソヴェートの方は果して一體どちらが眞であるか分りませんが、然し

乍ら我々としては、そのソヴェートが元來思想的に日本のそれと全然相容れない。これを政策の方から言へば、日本の大陸政策とソヴェートのそれは之亦一般的に相容れない事を知るのであります。只今は日本海々戦の三十四回記念日に當つて居りますが、これについて思ひ出すのは日露戦争である。この戦も、我が大陸政策とロシアのそれとが眞向から打突かつたといふのがあの戦争であります。歴史は繰返すと申します。日本のそれと彼のそれとは、今日以後も依然として相容れない、日本とソ聯との確執は宿命的なものであらう、かういふ風に言ふ人もあります。

然し乍ら兎も角も、彼が極東方面に對するところの大きな軍備の充實計畫、又、その着々と進展して居るところの此の事實は、彼の戦備の程度はどの程度になつて居るか、又彼の戦意がどの程度になつて居るかの打診は困難である

にせよ、兎に角これは大いに警戒をせなければならぬといふ事には、これは問題が無いのであります。故にこれに對する我が大陸軍備の擴充といふ事は無論無くちやならぬ。大陸軍備の充實といふ事は當然過ぎる當然であります。そこで此の大陸方面から日本の東亞新秩序の建設運動といふものに對して幾多の障礙を及ぼす、その障礙の事はまだ割合に分りが良い。國民の關心も相當に注がれて居る。今日皆が口を開けば、大陸だ、支那だ、やれ滿洲だ、といふ風に、その方面には國民が皆非常に關心をもつて居りますが、そして又關心をもつて居りまするだけに、事が大陸だけの事ならばまだ始末が良いのであるが、さて私共の憂慮して居るところのものはそれだけであらうかどうか。日本の將來の行動に對して、發展に對して障礙を及ぼす、壓力を及ぼす、壓迫を及ぼすところのものは、只大陸だけであるか。換言すれば後の方はどうなるか。大陸方面

を前とすれば後、即ち海の方はどうなるか、これが大きな問題であります。此の事を考へますといふと、これは或る意味に於ては、大陸方面のその將來の障礙といふものに對して、もつと質の悪いところの、もつと重大な關係をもつて居るところの、大きな問題が控へて居ると言つても宜いのであります。然らば海洋方面はどういふ事になるか、と云ひますと、即ちこの太平洋に大きな力をいざといふ時に及ぼす事の出来る國、又將來共愈々その力が大きくなつて來る、さういふ國々の問題であります。まあ色々ありますが、引つ張り出さなければいかぬ問題は、アメリカ、イギリス、それとソ聯邦の海上方面からする壓力であります。それにつきましてこれからお話しして見たいと思ひます。

アメリカ、英國は今日、何れ劣らず營々として、此の海上軍備の充實に力を

入れて居る。御承知の如く大正十年、十一年のワシントン會議、又昭和五年のロンドン會議、これによつて軍縮條約といふものが成り立つた。その軍縮條約によつて、彼等英、米は五、日本は三といふ、所謂五・五・三の比率といふものが出来上つた。考へて見れば訝しな話でありまして、國と國との問題である。それに、その國の軍備が、その國の主權から出て來るところの軍備の量が、彼は五であり我は三である、といふ風に決めるといふ事がそもそ／＼訝しな話であります。當時の情勢から云つて、色々の已むを得ざる事情もあつたでせう。が、然し乍ら英、米の方からこれを考へれば、英、米は此の條約によつて最も卓越したところの武力をもつたのだ。即ちもつと端的に申せば、彼等が五を持つて日本には三——出来るならもつと下の方を持たして置かなければ……といふやうな氣持もたしかにあつたらうと思ひます。而も日本としてこれ

を考へれば、まことにこれは心外千萬である。けれども日本は何も外國に對して、此方から理不盡な戦ひを挑まうといふ考へは毛頭無い。飽く迄も彼を脅かさず、我も脅かされないとこのものを以て標準として居るのであります。からして、さういふ本當の、軍備の本質に對するところの考へから云つて、左様な事になつたのであります。然し乍ら、もつとその内容に立ち込んで考へますれば、まことにこれは日本として苦しい場面に立到つたものであります。私共は當時の軍縮條約といふものを思ひ出す度毎に、今日に於ても思ひ出す度毎に、まことに苦い煮え湯を飲まされたやうな思ひがするのであります。

まあそれは兎も角として、今日に於て軍縮條約を彼これ詮議立てして居る時間もありませぬが、これはこれとして、未だに我々の念頭から去らないところ

の過去の苦しい思ひ出であるといふ事だけははつきり言へるのであります。が、兎に角左様な事からして、茲に一つの軍縮時代といふものが出来た。然し乍らこれは元々不合理千萬なる、妥當ならざるところの觀念からでつち上げたところの軍縮條約であります。これが永續するといふ事は想像されない。又一方、彼の世界大戦後の平和條約それから國際聯盟、之がその後の世界の情勢が段々と變つて來た事によつてぐらつき出した。御承知のドイツの勃興、彼のヴェルサイユ條約の否認、再軍備、といふ風になつて現はれ、更に一轉して獨伊の樞軸。これに對して英佛を中心とするところの他の一つの陣營が形成される、といふ事になつて、今日御承知の如きまことに目まぐるしいやうな變轉を歐洲方面でやつて居る。

一方、東洋に於ては、昭和六、七年の前の滿洲、上海事變より更に今回の

支那事變に至つた。舊き秩序を押し破つて、眞に正しき平和を東洋の一角に創り上げようとする、日本の偉大なる仕事が始まつて來て居る。

さてさういふ風に世界が走馬燈の如くに變つて參りますと、結局どんな事が現はれて來るかといふと、持てる國は持てる國で、持たざる國は持たざる國で、ものが言へるものにならなくちやならぬ。どうしても只紙の上でゴタ／＼言つて見たところで駄目だ、最後はもの言へるものが無くちやならない、即ち實力が無くちやならないといふ事になるのであります。これを或る理想論者は、なまじつか軍備といふものをもつて居るから、兵力をもつて居るから、戦争が起るのだと言つて居ります。兵力が無ければ戦争が無いのだといふ事を言ふ人もありますが、これは人間が羽根でも生えて天上を自由自在に翔け廻れる時代になつたら兎も角であるが、到底今は出來つゝ無い。結局矢つ張り力が無

くちや駄目である。さあその力がです。『力は即ち正義なり』といふ風な觀念で行かれては困るのであります。正しきものを力を以て押す、これが無くちやならない。けれども結局、力は正義なりの一點張りで行くやうな調子になりますと、愈々世の中は渾沌たるものになる。まあその方の事は別と致しまして、兎に角さういふ風な國際情勢の變轉、又彼の軍縮會議、それ／＼一つの反動とも言ふ可きでせう。兎に角近年はまことに顯著な軍縮時代に入つて來て居ります。嘗て各國が世界大戰の前といふものは、これは大いに軍縮時代であつた。その一點を申せば、英國とドイツの如きは大いに軍縮競争、殊に海軍競争をやつた。英國は、自分の國の次の國とその又次の國と、二國の海軍を相手に出来るものを持つて居らなければならぬ、即ちこれを二國標準主義と云ひますが、その二國標準主義で行かう、といふ事になつた。ところがドイツの

勃興、段々ドイツの海軍が強くなる、といふ事になると、さういふ二國標準主義なんといふ事は云つて居られなくなりまして、そこで自分の次のものに對して六〇パーセントの優越を持たう、といふ事になりました。この六割といふ事は、これは軍事的に非常に意味のあるものですが、その邊の委しい事は抜きにして兎に角六割優勢を標準とした。その後、英獨兩國海軍の協定問題といふ事もよく出た問題ですが、その中世界大戰になつた。當時アメリカが、大きな三年計畫の海軍擴張といふものを立てる。さうしてその三年計畫によつて素晴らしい海軍力をつくり上げようとなりました。そこで日本も已むに已まらず、當時の八八艦隊、戦艦八隻、巡洋戦艦八隻といふやうに八八といふものが中心となつて、その他に巡洋艦、驅逐艦、潜水艦といふやうな堂々たる大艦隊を作らざるを得なくなつた。それも當時の日本は、已むを得ない事であるといふので、

それに同意をして、素晴らしい大きな金が要るがこれも出す覺悟をした。ところが、何處の國も大きな計畫を立てるがさあ大變である。この事が一つは前のワシントン會議の起つた動機にもなりました、これではいかぬ、一つ何とか相談をして減らさうぢやないか、といふ事になつたのであります。そこで若しこれが正しいものなら、何處の國も一つの或る低い所に水準を置いて、それ以下は各國の任意といふ事にして置けば、五だの三だのといふ變な話は何もないのであります、實際はさうは行かない。轉んでも只ぢや起きない、減らしても只ぢや損をしないといふのが彼等のやり方であります。それが五・五・三であります。

ところが又一方から言へば、我々はその五・五・三や何かで斯ういふ好い結果を得ました。それは、我々はその五・五・三といふものによつて大いに考へ

た。これは容易ならぬ事であるぞ、殊にこれからの將來は航空機といふものが非常な大きな力を出すであらう。ところが飛行機の方は残念乍ら日本は遅れて居る。何と云つても出掛けが遅れて居る。出掛けが遅れて居る許りでなく、世界大戦といふものに、日本は参加したにはしたけれども、あの歐洲に於けるやうな、あゝいふ直接兵力を歐洲にもつて行つて——海軍は地中海へも進出したのであります。——歐洲戦争の本當の猛烈な處へ行つて居ない。大戦の洗禮を受けて居ない。それだけに航空機の活動なんかも進歩が遅れて居る。話は別であります、戦争といふものは、これは兎に角あらゆる人間の智力を總動員してやらにやいかぬものでありますからして、その必要の前には總てのものが最大の活動をする。その結果、非常な進歩をするのであります。従つて戦争が文化を破壊するのぢやない、實は戦争は文化を助長する、昂揚するもの

である。——戦争禮讚論になつてもをかしいですが、結果はたしかにさうです。現に飛行機といふ事だけを考へても、歐洲のあの猛烈な空中戦に参加した英國やフランスやドイツは非常に進歩したが、参加しなかつた日本は非常に遅れて居つた。さういふ事から言へば非常に素晴らしい戦争が時々あつた方が宜いといふ事になるかも知れませぬが……(笑聲)、まあ餘りさういふ事を言ふと叱られるかも知れませぬが實際はさうなのです。

ところでさういふ状態であつた。そこで我々は當時、一方に於ては五・五・三である、一方に於ては、飛行機は中々外國の進歩して居るものには追着かない、といふさういふ状態を見て、非常な覺悟をしたのです。これは結局どうしたら宜いか。日本は財力方面から云つても、中々外國の所謂持てる國には及ばない、結局これはもう腕で行くより他にない。東郷元帥の述べられたやうに、一

發百中、百發百中の大砲、百發撃つて百發悉く中るものならば、百發撃つて一發しか中らない大砲と較べてどうか。そんなものが百あつたつて片方は一發一發皆中る砲でやるのだ。一發々々必ず中る、百發必中の大砲百門あれば、百發一中の砲百門に當る。それで行かなければいかぬ。それには、只ちやいけな

い。結局猛訓練をやらなければいかぬ、といふので、そこで日清戦後からして彼の臥薪嘗膽十年も左様でありましたが、殊に近代に於ては、世界大戦、軍縮以後、本當に文字通りの猛訓練をやつて参りました。今日もその通りであります。その猛訓練が今回の事變に於てはしなくも現はれて來たのであります。今回は、大きな軍艦や何かは對手が居らぬものですから、その練りに練つた腕前をどうも示す事が出来ませぬので、大いに演習でもする他ありませんが、飛行機などは好い對手が出て來た。で、御覽の通りの状態であります。これは皆、

平素の訓練、實に平素の訓練の賜であります。同じく東郷元帥の、聯合艦隊解散の時の訓示にもある様に勝に安んずる者からは、神は勝利の榮冠を忽ち奪ひ去る。勝に安んぜず、訓練に訓練を重ねた者にこそ、輝かしい勝利の榮冠が下されるものであるのでありまして、吾々は實にこの大訓練をやつて居るのであります。それが今日の事變に現はれた。まことに長い間の我々の苦勞の効果が茲に現はれて來たのであります。私は——自分の事を言ふのをかしいですが——元來は航空方面の専門と云つてもいゝわけでありまして、昨年秋迄、随分長い間航空で御奉公して來たのでありますが、此の航空の過去の勤務の時をふり返つて見る時に、まことに感慨に堪へないものが多いのであります。今申しましたやうな猛訓練の結果、損害も却々多い。五十名、六十名と一年に死んで行く、それが段々殖えまして、遂に百名を突破した。その頃には、一體これ

はどうしたら宜いのか、これからは一體どうなるのか、實に立派な、有爲な若人が次々と斃れて行くのです。まことに心中暗澹たるものであります。然し乍ら我々はこれは已むを得ない、目をつむつて行くより仕様がな。外國列強の軍備、又外國の東亞に對するところの考へ、この外國の軍備の猛烈なる擴張、といふものを目の邊り見ました時、これはもう仕様がな、さういふ事態に即した日本が、立派に我が國家の安全を護り、國防の安全を期するといふ事の爲には、これは致し方ないのである、已むを得ないところの犠牲である。といふので、實は目をつむつて來たのであります。目をつむつて、平時に於ても戦場のそれと同じやうに、屍を乗り越えくして進んで來たのです。それが今回の事變に於て現はれた。故に今回の事變に於て、戦場で立派に華と散つた人は無論であるが、その事變の前、平時に於て尊い命を抛つた者は、本當にこれで

初めて浮ばれたであらうと私は思ふ。さういふ状態であつたのであります。此の考へは、今後とも我々はちつとも變りませぬ。殊にこれからお話致しますが外國の今の軍備の擴張、東洋に對する軍備の擴張といふものは恐いものである。恐いものであるからして、我々は更に一段と猛訓練をやる。それが爲には出来るだけ一人でも怪我をせぬやうにしなければいけません。けれども、已むを得ざる犠牲はもう目をつむつて行かう、といふ決心を有つて居るのであります。

然らば今日各國は、如何なる海軍に關する軍備擴張をやつて居るか。英、米の如きはまことに軍備に狂奔して居ると云つても宜い位であります。アメリカは軍縮條約によつて大きな紙の上の權利を得ました。此處迄作つて宜いといふ權利を得たが、長年それが整頓出来なかつた。これに較べると日本は、彼に

對するところは五對三といふやうな不利な状態であるけれども、然し乍ら整備して居る。各國が、日本の海軍はまことに平均の取れた艦隊である、とかう言つて居るが、これは自他共に許すところの問題であるが、まことにキチンと平均が取れて居るのであります。戦艦がある、その戦艦の手足となるところの補助艦が揃つて居るといふ風でありますが、アメリカの如きは、初めは戦艦だけは無暗に澤山持つて居る。何でも大きなものが好きだからして、戦艦だけは澤山持つて居るが、肝腎な補助艦がまことに貧弱、頭だけが大きくて、手足がまことに小さい。さういふ調子であつた。それではいかぬといふので、アメリカが躍起となつた。それがロンドン會議です。ワシントン會議に於て大きな戦艦と航空母艦を制限したが、今度はそれによつて、當然起るところの手足の擴張を各國がやる。それをやられてはアメリカはやり切れぬ。それで起つたのが

ロンドン會議です。そこでアメリカは營々としてやつて居るが、それが中々整備出來ない。艦隊の軍備といふものは、中々さう一朝一夕に出來るものではないのであります。今日の戦艦一隻は四年もかゝらなければ出來ない。速成では出來ないのであります。又人間も同様に速成は出來ない。速成栽培は野菜なら出來るかも知れないが、人間速成栽培はこれは出來ない。さういふやうな事でアメリカも大きな利権は條約で得たものゝ、それが中々整はないのであります。而もそれ以外に歐洲方面は色々な問題が起つて來る、といふやうな油斷のならない情勢なので、先づかういふ軍縮條約の制限量が出來た。アメリカはせめてそこ迄は何とかして早く整へなければいかぬといふわけで、昭和八年に産業復興費といふものが多量にあつた、今でも、國內の産業復興、景氣立直し、失業救済等段々言葉は變りますが、金がうんとある。その金の中から軍艦を造

る方へ廻した。これは良い手段であります。軍艦を造る、その爲には澤山の人が必要、大きな金が要る、その金が國內に廣がる、といふ事であるからして、一石何鳥かになる。そんなものです。今日大きな工業が始まれば、それによつて金は國內に還元する。外國に流れるやうなへまな事はやりませぬ。殊にアメリカなどはさうです。これは日本でも、冀くは一つ大いに國內の景氣直しといふ事にもなるからして、盛んに軍艦を造つて頂きたいものだと思ふのであります。

それは冗談ですが、兎に角さういふ調子でやつて來た。そこで昭和八年には二億三千八百萬ドルの豫算を取つて、それによつて三十二隻の大小軍艦を三ヶ年間に造らうといふ事になつた。合せて十五萬噸です。さういふ計畫でやり出した。ところがそれぢやとても足らぬ。そこで翌昭和九年には、五ヶ年計畫で

百二隻の軍艦を造る、さうしてその金が八億ドル、二十萬噸、かういふ事になつた。それで初めて、西曆一九四二年といふのですからして、來年、再來年——その次の年迄に、ロンドン條約のあの範圍迄立派に造り上げようといふ目算が立つたのであります。ところがそれでもまだ足りない。又最近は方々でゴタ／＼が始まつて居るといふので、昨年更に、その戦艦が何萬噸、巡洋艦が何萬噸といふ、それを更に二割増のものにしようと、いふ事が決まつた。それで今日やつて居るのです。

そこで現在やつて居りますものだけ云つても、これは素晴らしいものです。現在、戦艦その他澤山やつて居りますが、その中の一例を言へば、戦艦だけでも素晴らしい大きなものを二隻造つて居る。更に將來四隻造る。その後のものはまだ分らない。かういふ風になつた。さうして結局これから——さう急には行

きませぬが、先刻も申したやうに、戦艦の如きは中々時間がかゝりますからして、それ等のものがすつかり完備する迄には相當の時日を要するであります。が、さてすつかり完備した頃にはどうなるか。

一體、艦には艦齡——年といふものがあります。段々古くなれば勢力が弱る。人間は赤ん坊の時は勢力が無くて、壯年になつて勢力が頂點に達し、それから又段々落ちる、といふ風に山をなして居りますが、軍艦は生れた時が一番大きくて、年と共に勢力が段々下る。段々下つて第二線ものになる。それまでの年は艦種によつて違ひますが、昔は戦艦が二十四年と云つて居りました。近頃は軍縮條約の關係で二十六年にして居るかも知れませぬ。小さい艦はもつと早い。潜水艦は十三年位であります。これは別にはつきり定まつたものでないの

で、大體その邊として居るのであります。そして戦艦なら第一期艦齡、第二期艦

齡、第三期艦齡とありまして、最初の八年、即ち第一期艦齡が一番良いのであります。それから後は段々落ちる。それは落ちる筈でありまして、牡蠣も着くしエンヂンも痛むといふわけで、それは人間だつてさうであります。餘り使へば段々弱つて来る。その艦齡、第一線に出られる艦齡の中のものだけでも、實に戦艦十八隻を中心としたところの非常な大きな大艦隊、百五十萬噸の大艦隊を造らうとして居ります。今日は艦齡の古いものも入れて百二十萬噸持つて居ります。その古いものをはねて新しいものだけで百五十萬噸、古いものを入れれば二百二十萬噸になる計算です。さういふ大艦隊を造らうとして居るのであります。素晴らしいものであります。

では英國はどうか。英國も同様です。英國もやつて居る。英國は元々海軍の方は世界海上の王を以て任じて居た。世界の七つの海、全世界に互つて居る彼

の領土は日の没する所が無い。イギリスの軍艦旗は七つの海に翻つて居るといふ風な調子で威張つて居た。そのイギリスの海軍の軍備といふものが、どうやら近頃少し旗色が悪くなつて来たのであります。先年イタリー、エチオピヤ戦争をやつて、イタリーがエチオピヤの攻略をやるは甚だ怪しからぬといふ。怪しからぬといふのは、自分のアフリカ方面の發展を大いに阻害されるから怪しからぬのであります。そこで御承知の通りすつた揉んだがありました。最後には英國の艦隊を地中海へ持ち込んで来た。そこでイタリーも大いに決心をして、いざとなつたならば、一舉に彼等の空軍を以て英國の軍艦を片ツ端から撃沈せしめるといふ決心を、示したとか、しようとしたとか、まあその邊の最後の處は中々分りませぬが、兎に角、事態甚だ穩かならざる状態になつた。そこで英國はどうしたか。まあ色々政治的な問題もありませうが、兎に角そこ

で一旦梟がついたのであります。そこは彼は老獺なもので、轉身外交はお手のものですから、ヒラリと體を躲すのなど心得たものだといふ人もあります。そこで艦隊は堂々と——餘り堂々でもないかも知れませぬが——本國に歸つた。そこで大いに鼎の輕重を問はれたかの感がしたと思ひます。嘗ては世界の海上に君臨した、それが、今日イタリーの空軍に追ひ拂はれた様な事になつた。糞忌々しいと思つたらうと思ふ。嘗ては二國標準など、言つて偉さうな事を言つて居つたが、今日はさうは行かない。

一方ドイツはどうか。英國の百に對してドイツは三十五といふ約束はあるが新興ドイツはどん／＼歩み寄つて來る。ヴェルサイユ條約を蹴飛ばし、再軍備も敢行するといふ調子ですからどうなるか分らない。ドイツが勃興すればフランスが大變な事になる。要するに此の渾沌たる國際情勢に對處する上には、何

としても大きな軍備が無くてはならない。結局、理窟は抜きに力が無くちや駄目だ、かうなつたらしい。兎に角、強い拳骨を持つて居なければやりくりはつかぬ、といふ簡単な結論になるわけでありすが、さういふ事になるのであります。そこで、恐らくさういふ事だつたらうと思ひますが、一昨年、英國の陸海、空三軍の大擴張をやる事になつた。五ヶ年計畫、十五億ポンドでありますから、當時の日本の金にして二百五十五億圓といふ金をかけまして、さうして五ヶ年間に陸、海、空三軍の一大充實をやらうとしたのであります。さうしてこれは五ヶ年間の計畫豫算でありますから、毎年その目標を立て、やつて居る。それを今日もやつて居るのです。

今造つて居るのは澤山ありますが、戦艦を見ても五隻造つて居る。三萬五千噸の素晴らしいのを造つて居るのです。これからの戦艦にはどんな大きなものが

出て来るだらうか、といふ事はよく問題になる。軍縮條約では、戦艦は三萬五千噸迄といふ制限がしてありました。大砲は十六吋迄。ところが條約の變りました今日に於ては、どうなるか分らない。そこで嘗て斯ういふ事であつた。英米、佛三國連名で、日本は三萬五千噸以上の大艦を造つて居るといふ噂があるが、これは本當かどうか。さういふ大きなものを造つて居ないといふ證言をして呉れるかどうか。若しそれに對して何とも言つて呉れなければ、世間に傳つて居る通り、巨艦を造つて居るといふ事を信じて宜いか、といふまるで子供騙しのやうな事を言つて來たのであります。まことに稚氣愛すべきであります。

(笑聲) 兎に角將來は列強の大きなものが出て來るでせう。日本はそれに對して造るとも造らぬとも黙つて居る。これを稱して音無しおとなの構へと云ひます。

(笑聲) これは實は私も知らぬ。知らぬ方が、なまじつか知つて居ると皆さん

から上手にかまを掛けられるとつい喋つて了ふかも知らぬから知らぬ方が安全で良いのであります。(笑聲)。兎に角、そんなわけで、外國はもう營々として大きなものを造らうとして居る。今日どんく、出來掛つて居るのは皆前の計畫です。軍縮條約の約束によつて三萬五千噸のものです。英國は大きなものを造るといふのですが、それは此の間進水をしましたキング・ジョージ五世號です。進水してから完成する迄大變ですが、これと同型艦があと四隻も控へて居る。その次の計畫中といふのが、これは相當大きいらしい。四萬五千噸位迄行くのぢやないかといふ噂があります。殊に此の間進水しましたものは、皆さんも新聞、雑誌で御覽になつたかも知れませぬが、前の歐洲方面の約束で砲は十四吋になつて居るが數が多い。その中特に面白いのは四聯裝です。一つの砲塔から大砲が四つ出て居る。從來は大抵二門でありました。アメリカは今のメ

リーランド、コロラド級は三門出て居ります。日本は従来巡洋艦のは三門のもあります。戦艦のは皆二門であります。それが英國の新しい戦艦は一砲塔四門のものになるといふのです。中々面白い恰好をして、一つの砲塔から四つも出て居る。それが出来るならこれは一番良い。なるべく艦を軽くする、なるべく場所を取らぬ、軽くして澤山の砲を出す、これは一番良いのであります。かういふ風に大きき許りでなく、将来は随分變つたものが出るだらう。此の進歩に遅れないやうに努力をしなければならぬのであります。そこで巡洋艦の如きは各國ともさながら競争時代が出現した。ところで、日本の巡洋艦については各國が非常に注意を向けて居ます。昔、日本の『夕張』といふ三千噸のものが出来た時、これは他の國の五千噸級のものに優に匹敵するといつて驚いた。日本の五千五百噸のものが出来ると他の國の七千噸級に匹敵するといつて

驚き、『古鷹』級が出来た時には他の國の一萬噸に匹敵するといつて目をみはつた。日本に一萬噸が出来た時は、こりやたまらんとおぼつたかどうかは知れぬが兎に角日本の建艦には各國とも驚き、心配して居る。心配する許りでなく、非常な脅威を感じて居る。であるからして、その恐ろしい日本が、今度新しい軍艦はどんなものを造るか知らん、といふので先刻申したやうな稚氣愛すべき通牒まで來ることになる。どんなものが出るか、そこは造船の大家に全幅の信頼をかけて御待ち受けになつて宜いと思ひます。幸に本年の議會に於ても、御承知の通り建艦費は協賛されました。これ等の將來のものを以て、さうして我々の腕をかけて、西太平洋に於ては他國を脅かす事はないと同時に、他の國によつて脅かされる事の無い、即ち西太平洋の制海權は完全に微動だもしないものにして置く、といふ信念で進んで居るのであ

ります。それでなければ、先程申したやうに、東亞新秩序の經綸とか、大陸の建設とか云つて美辭麗句を並べたとて到底それだけではものにならぬのであります。

フランスや何かその他の國の事もありますが、これは省略致します。兎に角何れの國も盛んに建艦をやつて居ります。一例を言へば、ドイツが一萬噸の袖珍戰艦といふ素晴らしいものを持つて居る。山椒は小粒でもピリ、と辛い、そのピリ、です。形は小さいがこれは大したもの。そのピリ、の恐ろしいのがフランスです。そこでこれではいかぬといふので、二萬六千噸級といふ大きなものをフランスは造つた。二萬六千五百噸のダンケルク級を造つた。大砲は十三吋砲です。これを造つてドイツのピリ、に對應しようとした。ところがドイツは又それに對抗して、シャルンホルスト級同様に二萬六千噸級といふ大きなのを造

つたので、フランスは又驚いて、三萬五千噸級のリシユール號及びクレマンソ一號二隻の建艦をやつて居る。今度はドイツが決して負けては居ない。三萬五千噸二隻を今やつて居る。さうするとイタリアもイタリアで、フランスがやればイタリアが黙つて居ない。イタリアも既に、新しいのでは三萬五千噸級のものを既に二隻は進水し、あと二隻の建造計畫をして居る筈であります。かういふ風に、皆素晴しく大きなものをやつて居る。さうして將來、英國邊りで四萬噸、四萬五千噸のものをやれば、此方も四萬噸、四萬五千噸だといふ風に張り合つて来る。張り合はざるを得ぬのであります。

かういふ風に、國と國とが近接して居らうが居まいが、海軍の軍備は特殊であります。非常に移動性が強い。だから三十四年前の日露戰爭の時だつて、ロシアの艦隊が海路一萬五千哩を越えてやつて來たのです。又、今でも何か事が

あれば何處へでも行く。行かなくちや駄目だ。動かぬ軍艦ぢや何にもならぬ。そこでアメリカが躍起になつて居るのはパナマ運河です。パナマ運河で大西洋側に居るのをヒヨイと太平洋へ行けるやうにしようといふのです。あの軍艦は大西洋の軍艦、此方は太平洋の軍艦——さういふ馬鹿な事ではならない。そこで一國の軍艦が出来たら決して油断がならない。陸軍の軍備よりも遙かに、さういふ風な他國の關係が直接に響いて来る割合は強いのであります。それ程海軍の軍備は特殊性を持つて居ります。特に考へなくてはならぬ點があるのであります。

それからソヴェート。ソヴェートは先刻も申したやうに、陸上方面は非常に大きな武力をもつて居ります。そのソヴェートが、近頃は大いに海軍に力を入れて居る。これはさう出て来るのが當然であります。大陸だけでやつても、對

手が第一海の中に居る國ですからして、海の中に本陣を持つて居る國を、幾ら大陸で軍備を増して、西伯利亞あたりで地團駄踏んで見たつて、中々日本迄は聲が届かない。だから矢つ張りこれが若し日本を壓迫しようとする時には、大陸から壓す事も必要ですが、と同時に海の方から壓さなければ嘘です。日露戦争の時も彼等は考へて居ります。滿洲にどんく入つて来ると同時に、一方に於ては全海軍の半分を擧げて東洋に待機せしめたのです。全體でなくて仕合せであつたのです、ソヴェートは今日どういふ事をやつて居るかといふと、中々海軍の建設といふ事は困難です。戦艦一艘造るのに四年もかゝるのですから、さう急場の間には合はない。そこで考へたのが潜水艦です。潜水艦の世界で一番多いのはソ聯邦です。百七十隻以上もある。噸數九萬噸。更に今日建造中、若くは計畫中と云はれるものが五十隻以上です。これが二萬噸以上。素晴らしい、こんなに澤山

持つて居る國は他にありませぬ。大きいのは千二百噸もある。千二百噸と云つたら中々のものです。質の處は實際に力競べをやつて見なければ分らぬ、これは分らぬですが、量だけに於てはたしかに世界一の大きな潜水艦國になつたのです。さうしてその中の六十隻以上といふものが既にウラジオに控へて居る。それからまた色々彼等が力を入れて居るのがありますが、彼等は本國から白海へ抜ける運河を造つた。尤も餘り大きな軍艦は通れますまい、パナマ運河のやうなわけには行かぬでせうが、兎に角或る運河が出来た。それから矢つ張り潮の關係でせう、旅順と同じ様に凍らない軍港があるのです。ホリヤノリノエといふ不凍港です。それから北を廻つて、ヒヨイと東洋に出て来る航路がすつかり出来て居ります。これは紙の上では大變遠いですが、地球は丸いからヒヨイと行けば直ぐ行ける。それから碎氷艦をせつせと造つて居ます。これは一體何

を物語るかと言へば、いざといふ場合に、時期などを見定めれば、サツと太平洋の方へ來られるやうにといふ考へです。それでも足らずに、最近三萬五千噸級の戦艦を二隻乃至三隻造つて居る。

さあそこで考へまする事は、東はアメリカ方面の大きな壓力が西へ及んで來る。南からは英國のそれが及んで來る。北からはソヴェートから及んで來る。そして日本が丁度その焦點であるのであります。而もそれらのものゝ足場となる所は澤山ある。ハワイ、これは實に龐大な根據地設備がある。ミッドウエー、ウエーキ、グアム、フィリッピンがある。フィリッピンは懸ては獨立するさうですけれども、『海軍根據地に就ては獨立の場合に於て更に協議すべし』と云つて居る。これは手放ししますまい、大事な場所であると私は思ふ。かういふやうな所、又最近に於てはハワイより南の方迄手を出した。この附近の島の中

には英領があり、米領があり、分らぬものは英米兩國のものだ、といふ風にしまして（笑聲）さうして色々の設備をやりかけようとして居る。一方北の方は、アリユーション方面ではシトカ等といふ所に大きな設備をやつて居る。かくて真ん中から、北から、南から、西の方に彼の大きな手を及ぼす事の出来るやうに着々やつて居る。さうして彼の艦隊は、銳意太平洋の作戦研究に研究を重ねて居る。それはその通りでありまして、アメリカがアジアといふものを忘れる事は出来ないであります。アメリカが一八二三年にモンロー主義を打ち立てた、さうして歐洲方面のゴタ／＼には入らないから、歐洲も自分の方に餘計な切介をして呉れるな、と言つた。このモンロー主義も實は怪しいもので、可也大きな介入を米國側からやり出す。あまりお切介をすると、上院の老人が、『これアメリカの傳統政策に反するものなり』と言つて時々一本釘を刺

す。さういふ風に絶えず保守派と急進派とやり合つて居るのが面白いのであります。モンロー主義も可也形が變つて來たが、扱て東洋政策はどういふものであるかと言へば、一八九九年に國務卿ジョーン・ヘイが聲明した、門戶開放機會均等主義であります。

英國は一八四〇年の阿片戦争で香港を取つた。それから後百年間、支那に對して非常な力を入れて、先刻私が申した舊秩序を作り上げ來つたのであります。舊秩序を作り上げる立役者となつてやつて來た。それが故に彼等の狙つて居るところの支那を半植民地化せんとするところ迄行つて、さうして支那に植ゑつけたその利權を日本に踏み躪られはせぬかといふので躍起になつて居るのであります。が兎に角、英國は支那に對して非常な利權をもつて居ます。これはたしかにその點はよく分るのである。分るが故に、英國が支那に持つてゐ

る、英國ばかりでない、各國の支那に持つて居る權益を、我々は理窟なしに踏み躪らうとは露程も考へてゐない、と言つて居るのですが、疑心暗鬼と云ひますか、自分達が過去になし來つたところの壓迫を、日本も亦やると考へて居るのか、彼らはしきりに邪魔をして居る。自分で幻影を作つて、その影を追つて日夜焦心する様はまことにお氣の毒千萬な話であります。

それはそれとしてアメリカは、六十年も遅れて初めて手を打つた。それは建國が遅いだけに當然であります。さうなると普通の植民地化政策ではいけない。そこで、支那は世界に對して門戸開放、機會均等たるべし、まことに結構な文句を作つた。表は一寸考へれば非常に平和ですが、實は英國が作つたところの權益にも負けないところの權益を支那に打ち立てようといふ考へをもつたのであります。そこでアメリカの海軍政策といふものが極めて積極的に出て來

るのであります。『アメリカの海軍といふものはアメリカの國策を支持するものなり』といふ事を一番冒頭に極めて鮮明に書いてある。アメリカの國策を支持するのがアメリカの海軍である。何處だつてその國策を支持しないやうな海軍なら無い方が宜いのであるが、わざ／＼はつきりアメリカはかう言つて居る。その國策とは何であるか。東洋に對するところは門戸開放、機會均等、軍縮條約の見方も、それから九ヶ國條約も、もつと突込んで言へば不戰條約も、結局門戸開放、機會均等説から來て居るのだ、アメリカの幾多の條約は、此の東洋に對する根本國策から來て居るのだ、かう言つて宜いのであります。

さてさういふ事であるからして、アメリカの大統領の顔が變らうが、國務卿の首が變らうが、さういふものに頓着なく、アメリカの傳統的な對東洋國策は變らない。それに對してアメリカの海軍が支持して居る。こゝにアメリカの海

軍の太平洋を舞臺とする大作戦の研究訓練に躍起となるといふ事が出て来る。
アメリカの東洋に對するところの政策から來て居る。

英國は又英國で、此の百年間打ち立てたところの東洋に對する、殊に支那に對するところの利權を失つては大變だ、失ふものか、あわよくば支那を助けて、さうして日本の支那に對する後退を招來せしめる、日本を支那より後退せしめる、さうして自分が過去百年の間に打ち立てたところの利權を維持する許りでなく、更にそれを擴充して、一段と大きな利權を得ようといふ魂膽でござる。フランスもイギリスの聲みに倣つて同様であります。さういふ意味に於て此のシンガポールの軍港を見なければならぬ。東洋にある艦を時々はドツクに入れて牡蠣を取るのだ、それであゝいふ大きな設備をしたのだ、など、吞氣な事を考へては居られませぬ。ハワイ亦然り、皆彼等の艦隊をして積極的にも

のを言はしめん爲の根據地であります。

一方に於てはソヴェートの艦。かういふ風にまことに海上方面の將來といふものはまことに多事ならんとしてゐます。軍艦といふものは非常に機動性に富んで居るものです。いざといふ時には、直ちにそれが如何なる遠い所にでも行く。林子平ではありませぬが、『江戸を洗つて居る水はロンドンに通ずる』まことにその通りです。世界中に通ずる。その世界中に通ずる海を渡つて、どんな遠い所からでもやつて來られるのが軍艦であります。

然し乍ら我々としては、さういふ實際の状況であります。此方から外國を攻め立てるといふやうな事は無論無いのであります。然し乍ら外國が、正堂々たる我國策を理解することなく我國に對して、不當なる干涉、壓迫をしようといふ時には、斷乎としてこれを排撃しなければなりません。その斷乎と

して排撃するところの實力を確りと持つて居なければならぬのであります。一方に於て大陸に於けるところの實力と、今言つた情勢に鑑みまして太平洋に對する充分なる防壁を築いてこそ、はじめて幾多の興亞の諸政策が着々と實行されるべきものであります。此の防壁無くして、政治的な經濟的な、又その他一般文化的な色々の方策をやらうと思つたつて、それは到底出来るものぢやない。此の點から行きましても、我々は現下の外國の狀態が今言ひましたやうな事でありするが故に、此の時代に處して、海洋方面に活眼を開き、海洋方面の充分なる實力を常に持つて居なければならぬ、といふ事をつくづくと痛感するのであります。又これを別の方面から見ましても、所謂東亞の大經綸、即ち支那の再建といふ事を考へましても、これは中々大きな、巨額の金が要る。この一點から考へましても我々は大いに海外に發展しなければいかぬのであります。

す。

以上申しました事は、私は、海洋に防壁を築いて、その中に隠れて居れといふのではありませぬ。大きな實力を持つと同時に、大いに海洋に發展する事を言ふのであります。此の東亞の大經綸に要する富といふものは何處から持つて来るか結局海外に富を求める、それしか無いと私は思ふのです。又、資源の問題を取つてもさうです。大陸資源、これは澤山あるでせう、又無くちや大變です。が、然しこれだけで一體良いのか。よく日滿支とかブロックと云ひます。これも結構ですが私は慾が深い。これ許りでは満足しないのであります。これ許りで、結構だ、日本は持てる國になつた、と満足する様な吝な人間ぢやない。資源は全世界に求めよ、と云ふ可きです。大きな事を言ふやうですが、此の氣持でなくちや駄目です。只今は何處の國に行ても皆門を閉めて居るので

急には行かぬ。門を閉めて居るからこつちも遠慮しようなどといふ簡單なものぢやない。それ等の富、世界に介在するところの富に對して、日本が泥棒の眞似をせよといふのではありませぬ。日本が進んで富を開拓して、我も肥り、その所に在る人をも肥らせようといふ大きなところから行くのでありますからして、何も遠慮する必要が無い。南洋方面の、日本の何倍するといふ大きな富、これは放つて置いては何時迄も埋まつて居つて開拓出来るものぢやない。結局日本が出て行かなければ開かれないのであります。それを門を閉めて居るからと云つて遠慮して居たのでは、何時迄経つても開かない。それを此方から開いてやらなくてはならぬ。眠りを醒ましてやらなくちやいけない。その眠りを醒ますものは、地理的から云つても、日本の將來の發展、それ等の國の將來の繁榮から云つても、日本が出て行かなくちや嘘であります。それを忘れてど

うなりますか。大陸の資源は成る程澤山ありさうだ、ありさうだ、ほじくつて見なければ分らぬが、ありさうだで満足して、あゝもう結構だ、鐵でも金でも石炭でも、銅でも何でも出て来る、と言つて満足して居る人があるかも知れぬが、どうも私は慾が深いのか満足出来ませぬ。まだこれだけでは足りない。殊に南洋方面に大いに平和的進出を試みて、その國の開拓をして、その國も榮えさせ、又我が日本も大いに發展する。さうでなくちや嘘である。若しそれ等の國が獨りで榮えるものならば、今迄夙くに榮えて居なくてはならない。ところがこの方面に今迄やつて来た歐洲諸國は、皆彼等常套の植民政策を取つた。植民政策は自分が肥れば宜い、對手の植民地はなるべく瘦せ細らせて、それから段々此方へ良い物を吸ひ取つて來るといふやり方で、それが從來歐洲がやつて居た植民政策であります。だから何處に今迄幸福な植民地があるか。印

度然り、佛領印度然り、蘭領印度然り。これは過去の遺物である。それを以て彼等は支那に臨んだのであります。それを我々は舊秩序と謂ひます。それを打破せんとして居るのです。

又、一面人口問題から行きましても、今日はもう何でも彼でも猫も杓子も滿洲、支那で大陸發展への聲が高い。これは結構です。結構ですが、それと共に何故南を忘れるのか。滿洲方面、無論大いに出て行く可きである。がそれ故に他の方を忘れて宜いといふ理窟は無い筈。而もそれ等の國と較べて、氣候的にも地理的にも、幾多の便利がある。只、現在はそれ等の國が邪魔をして居るので、その迷夢を醒ましてやつて、相共に提携して大いに發展すべきであります。それが出来ないといふやうな日本の外交ぢやない筈であります。

かういふ風にして、獨り北ばかり向かずに、廻れ右をして、もつと南の方も西の方も見るやうにしなければ嘘であります。さうしなければ八紘一宇の大理想は遂行出来ませぬ、北だけでは遺憾乍ら一方だけになつて了ふ。私は決して大陸發展に對してこれを軽く考へて居る譯ぢやありませんが、此の世界の大勢といふものをよく考へますと、そんな時代ぢやない。大陸に發展する爲には太平洋に發展せなければならぬ。太平洋と大陸は盾の兩半面である。元々一つである。大陸に大きな樹を生やさなくらいいかぬ。その樹の根は太平洋の水が洗つて居るのです。太平洋の水を吸つて大陸の樹は育つて居るのです。此の邊の消息は極めて簡明であるのに、さて遺憾乍ら今日我が國一億の目といふものは、どうも肝腎要のその方に向いて居ない、これは私共海といふものを以て非常な關心の對象として居る者として、まことに痛恨の情を禁じ難いのであります。大陸の建設をする爲には何としても太平洋を忘れてはならぬ。太平洋に大きな關心を持た

ずんば、軍備の方から行きましても、將又經濟の發展といふ見地から行きましても、何としても太平洋に對して充分なる發展を圖らなければ嘘である。殊に我が國は元來が海の國民である。海によつて育つた國民です。日本の元の民族が南から來たか、北から來たか、元々本來日本の國に居つたのか、色々の説があります。その説はその道の人に委して、兎に角海に關係のあつた事は間違ひないのであります。それでなくても海の中に在るところの島ですから、否でも海に關係がある。その海によつて育つた國、海によつて守られた國が、海を捨て、どうするか。今回の事變に於ても、餘りに完全な制海權を握つて居るが故に、海の有難さが分らない。出て行つた者は完全に向ふへ着くと思ふ。送つた物は必ず大陸へ届くものと信じて居る。慰問袋を幾ら送つても、一つとして海に落ちやしない。これは制海權の有難さ、餘りに結構な恩惠を受けて居るが故

に太陽の有難さが分らない、空氣の有難さが分らない、それと同様です。餘りに完全な制海權を握つて居るが爲に、海の有難さが分らない。それではいけない。有難いといふ事を考へ、考へた許りでなく大いに發展をして、それによつてのみ完全に大陸を建設せしめる事を得しめ、それによつて我が國永遠の發展を招來せしめなければならぬ、といふ事を常々痛感する次第であります。

さて今日は餘り前後の連絡も無いお話を申し上げまして甚だ恐縮であります。私が、私の今日最も重要な問題として考へて居ります海の問題についてお話を申し上げました。これによつて私見の一端を御掬み取り願へたと思ふのであります。どうか願はくば大切なる國民教化の重任に就いて居られる皆様方でありませうが故に、大所高所より、この日本國家の行末、又、特にそれと密接不可離の關係にある海洋の問題について、併せて此の上ともの御研鑽を願ひ

國民指導の上こくみんしだうのうへに於おて、十二分じふにぶんに我々われらの主張しゆちやうの存ぞんじまする所ところを御傳おつたへ下くださいませぬ。御援助ごまんじょくた下くださるやう願ねがふのであります。切せつに各位かくみの御自愛ごじあいを祈いのつて已やみませぬ。

昭昭十四年十月廿日印刷
昭和十四年十月卅日發行

奈良縣丹波市町川原城三〇九
編纂兼發行人 天理教道友社
右代表者 岡島善次

奈良縣丹波市町川原城三〇九
印刷所 天理教教應印刷所
右代表者 緒谷金彦

394
196



94
96